

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990700088
法人名	社会福祉法人百葉の会
事業所名	グループホーム百葉南部の郷
所在地	山梨県南巨摩郡南部町南部8058-1
自己評価作成日	令和 5年 11月 10日
評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	令和 6年 1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・新しい入居者様に職員が作成した暖簾や表札でお迎えし、新しい環境にも可能な限り慣れていただくように配慮している。 ・感染症対策継続しながら、企画を実施し入居者様の日々の生活が充実したものになるよう配慮している。 ・面会に来れない方にもお伝え出来るよう日々のブログを発信している。 ・面会も緩和され家族との繋がりを大切にし遠方の方にもzoomなど対応している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>社会福祉法人百葉の会として、山梨県で初めての複合施設であり、併設するデイサービスセンターと共に、2ユニット(定員18名)のグループホームとして設置されています。グループホームの理念・基本方針は、「自ら受けたいと思う医療と福祉の創造」「入居者一人ひとりに合ったケアの実践」をあげています。利用者の意思・人格を尊重し、明るく家庭的な環境の中で、利用者の方々が「にこやかで」「個性的」に生活ができるよう取り組みがされています。日常生活上のケア及び、ニーズに基づいた機能訓練の実施が行われ、利用者の有する能力に応じた自立生活が送れるように支援がされています。また、健全に、地域に開かれた運営・経営を行い、地域交流を積極的に図り、質の高いサービスの提供を行うために、徹底した職員教育をして、職員の資質の向上を図っていくことに努めていました。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49) (※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム百葉南部の郷**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めに法人事業計画から施設目標、部署目標を策定し部署会議内にて管理者と職員は目標進捗状況を確認し実践に繋げている。	同左	法人の理念・ビジョンは、パンフレットやホームページに記載し、公表されていました。また、単年度ごとに部署目標を設定して、職員会議等で理解し、共有していく体制がとられていました。事業所の目標達成の進捗状況や課題等について、職員会議等で確認を行い、日々の実践に繋げていく取り組みが行われていました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	今年度は感染対策を行い月に一度程度ボランティアが来所している。またその様子もブログや広報を通じ外部に発信している。	同左	新型コロナウイルス感染症防止のため、地域との関わりや交流が十分にできない状態にあります。コロナ禍以前は、地元の中学校との交流、介護の仕事説明会、職場体験等も行っていましたが、今年度は月に1回の定期的ボランティアの受け入れに留まっています。今後は、できる範囲での交流を行っていく計画となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設間、自施設で研修を行い、研修内容を広報にて掲載し外部に発信した。	同左		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染症対策のため書面での開催となったが頂いた意見を集約しお応えしている。	同左	2ヵ月に1回行われる運営推進会議の開催は、新型コロナウイルス感染症防止のため、集合形式(対面)による会議でなく、書面による開催となっていました。外部構成メンバーは、町の介護課職員、民生・児童委員、家族等となっていて、メンバーの意見・意向を聞き、事業所の運営に活かしていました。なお、令和6年度からは、集合形式の会議に戻して行う計画となっています。	新型コロナウイルス感染症も第5類となり、令和5年度からは、集合形式での運営推進会議が開催されるグループホームが増えています。集合形式による会議は、意見交換や情報提供等がより細かく行え、会議の質を上げることに繋がります。十分な感染防止対策をとり、その時の状況に配慮しながら、集合形式での会議開催について検討をお願い致します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	代表者が地域の包括支援センター運営協議会等に参加し情報共有を行い協力体制を築けるよう取り組んでいる。	同左	市の高齢者介護保険課職員とは、電話等での定期的連絡や訪問により、情報提供等の連携が図られています。市で行われる事業者の連絡協議会へグループホームの管理者が参加して、情報の共有や協力関係の構築に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年二回の勉強会を実施。南部の郷の基本方針をもとに身体拘束をしないケアの実践をしている。	同左	グループホームの玄関には、法人の理念とともに「身体拘束をしないケア」についての規定が掲示されています。また、職員会議や定期的な研修会において、身体拘束についての内容を確認したり、具体的事例に基づき、してはいけない行為についての確認を行い、全職員に共有するための取り組みが行われていました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年二回の勉強会を実施。委員を中心に会議内で進捗確認、注意喚起を行っている。	同左		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通じ制度を理解情報共有をする事で個々の知識の向上に努めている。	同左		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	法改正があった際には説明会や書面を配布しお伝えしている。契約時には重要事項説明書やリスク説明を充分に行い同意を得ている。	同左		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム百葉南部の郷

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年顧客満足度アンケートを実施。ご本人様ならびに家族様の意見を頂きその対応策を話し合い回答をご家族様に郵送と玄関に掲示し外部の方にも表している。	同左	年1回「お客様アンケート」を実施して、利用者や家族からのご意見を聞く取り組みが行われていました。アンケートの内容は16項目の質問に答えて頂くものであり、記述式回答の他、項目ごとの評価結果をグラフ化し、前年度と対比して表示されていました。また、アンケート結果については、グループホーム内に掲示されると共に、それぞれのご家庭へ送付されていました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各会議内で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。半年に一度職員面談を行い意見を集約し運営に反映している。	同左	職員会議やその他の会議において、職員の意見や想いを聞き、日々の活動に活かしていました。また年に2回管理者と職員の面接が実施され、職員から出された意見・要望を聞く場が設けられていました。職員から出された内容については、職員会議等へフィードバックして全体で検討されるとともに、必要に応じてグループホームの事業運営に取り入れていました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期に一度個人面談を実施。職員が働きやすい環境づくりをしている。	同左		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員は法人内の研修に参加している。新人達成度チェック表を運用し力量把握に努めている。	同左		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染症対策の為にリモートでの研修を実施。研修を通じサービスの質の向上を目指している。	同左		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お客様の生活歴やバックグラウンドを調整し日常会話の中に活かしている。またその中でお客様が不安に思われている事など聞き出せるように努めている。	同左		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回相談やアセスメントにてご家族様等の関係性作りを努めている。	同左		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回相談後にお客様に本当に必要な支援とは何かを見極め必要に応じて他のサービスも含め助言を行っている。	同左		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様の座席の配置や話題に配慮する事でお客様同士の関係性の構築に努めている。	同左		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム百葉南部の郷**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お客様の状況に変化があった時には施設のみで解決するのではなくご家族様にも協力を要請し一緒に解決する関係性を構築している。	同左		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染症対策の為地域行事には参加が出来なかったがブログなどで発信している。	同左	地元職員の多いため、利用者との関係を理解しやすく、継続した支援ができていました。コロナ禍以前は、利用者の出身地域の方が顔を出してくれたり、自宅への帰省等が行われていましたが、現在は、感染防止のために行われていません。利用者の状況や、グループホームの行事等については、SNSで地域や家族への発信が行われていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様の会話や関係性が円満になるよう状況に応じ職員も会話に参加したりと配慮をしている。	同左		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も相談にのれる支援体制をとっている	同左		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス担当者会議内で実施。またお客様の会話の中から嗜好調査をし行事などで提供している。	同左	職員は「認知症であるから無理」という考えではなく、利用者一人ひとりの思いや意向に対して関心を払い、日常生活の中から把握に努めると共に、その内容を外出計画等に反映されていました。また、サービス担当者会議の中で、職員間での確認がされていました。年初めに、希望があった「初詣外出」を実施されました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回相談の際にご本人様やご家族様から聴取している。入居後の会話の中からも経過等の把握に努めている。	同左		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会議内での情報共有を行ったり、ケア記録、申し送りを使用し情報共有をリアルタイムで行っている。	同左		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者を実施しお客様の状況を協議し計画作成担当者が現状に即した介護計画を作成している。	同左	介護計画は、担当職員や介護支援専門員等により、利用者がよりよく暮らすためのアイデアを出し合って策定されていました。介護計画の見直しは6ヶ月に1回、アセスメントとモニタリングをくり返し行い、利用者のニーズや課題を明確にし、利用者や家族の要望を取り入れながら行われていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録や申し送りノートでお客様の状況や気付きを情報共有をしその情報をもとに介護計画作成者は計画書を作成している。	同左		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム百葉南部の郷**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービス担当者会議や会話の中からニーズを把握し、ご本人様やご家族様の状況にあったサービスの提供を行っている。	同左		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	代表者が地域の包括支援センター運営協議会の参加したりと情報共有を行い協力体制を築けるよう取り組んでいる。	同左		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医はお客様とご家族様の希望を尊重し意思決定を行っている。職員はお客様の状況を把握し主治医に報告を行い情報共有を行っている。	同左	利用者や家族の希望に応じ、かかりつけ医または協力医療機関(主治医)を選べる体制となっています。協力医療機関は、近隣の総合病院と診療所があり、必要に応じて訪問診療(往診)が行われていました。かかりつけ医への付き添いは基本家族が行っていますが、協力医療機関への付き添いは、グループホーム職員により行われていました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員はお客様の日々の状況を把握し訪問看護師や併設のデイサービスの看護師と情報共有を行っている。	同左		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	計画作成担当者が主になり病院相談窓口や担当看護師と連携し関係性作りを努めている。	同左		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	お客様の重度化やターミナルの対応に伴いご家族様や主治医、訪問看護師、職員を交えてサービス担当者会議を開催し方向性を明確にしている。	同左	グループホームの重要事項説明書において、「看取りについて」の項目があり、可能な限り、利用者・ご家族等の意向を確認させていただき、「看取り指針」に基づいて行っていくことが記載されています。主治医、訪問看護、施設担当者等との話し合いを行い、施設での看取りが可能となった場合、利用者の心身の苦痛の緩和に努めることが明示されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生の際には法人の統一マニュアルに沿い対応をしている。	同左		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練を実施している。地域との協力体制も築いている。	同左	防災訓練・避難訓練を年2回実施しています。訓練には、近隣の消防団、消防署にも参加していただき、合同での訓練を行っています。グループホーム単独で行う場合と、隣接している特別養護老人ホームと合同で行われる場合があります。職員会議において、普段から災害に対する意識を高めるための共有が図られていました。また、備蓄関係についても整備されていました。	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にお客様の側の立場に立ち一人一人の人格を尊重しながら、声掛け対応を行っている。	同左	グループホームの重要事項説明書において、「秘密保持及び個人情報保護」について規程されていて、利用者一人ひとりのプライバシーの保護について謳われていました。職員は常に利用者の立場にたち、利用者の人格や尊厳を尊重した接し方に心がけていました。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム百葉南部の郷

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員はお客様となじみの関係を構築する事でお客様が自己決定が出来る環境を作り上げている。	同左		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様の希望に対応しながら、その人にあったペースで過ごしていただいている。	同左		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装はお客様がご自身で選び、職員はその方らしい身だしなみを尊重している。	同左		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様のレベル低下に伴い食事準備や片付けが困難になっているが、食事もお客様の楽しみになるよう嗜好調査を行い行事企画などにて提供している。	同左	昼食は、デイサービスと同じものを提供する形になっていました。朝夕のごはん、味噌汁はグループホームで作られていました。毎年1回利用者の方への嗜好調査が行われ、行事食等への提供に繋がっていました。また、食事のテーブルの配置や席順についても、楽しくたべられる配慮がされていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケア記録に食事量、水分量を記載し把握している。その他状況に応じて声掛けを行っている。管理栄養士が月一度来所し栄養指導を受けている。	同左		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い清潔が保てるように努めている。また定期的に歯科衛生士の往診にてメンテナンスを行い清潔保持に努めている。	同左		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録に排泄のタイミングを記載し、把握をする事でお客様の習慣にあった排泄を行う事ができている。	同左	利用者の方一人ひとりの排泄の時間や排泄パターンを把握して、個々にあった排泄支援が行われていました。できるだけトイレで自立した排泄ができるように、声掛けを行うと共に、一人での排泄が難しい方には、排泄チェック表により時間を確認して、誘導する対応がとられていました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を把握する事で一人一人にあった飲食の提供や運動の働きかけを行っている。	同左		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お客様一人一人に声掛けを行い、希望に沿って入浴をしていただいている。	同左	入浴は原則週2回となっていますが、入りたいときには、毎日でも入浴ができる体制となっていて、利用者の自己判断や自らの決定を大切にした支援が行われていました。入浴をただ清潔にすることだけでなく、楽しんでいただくという観点を大切にし、長く入って頂き、十分に満足してもらえるような対応がとられていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調を見ながら必要に応じて声掛けをしているが、基本的にはご本人様のリズムにて休息をしていただいている。	同左		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム百葉南部の郷

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋など職員で情報共有して服薬ミスがないように服薬支援している。	同左		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵や創作活動と編み物などお客様が思い思いに趣味活動が出来るよう配慮している。天候がよい時は散歩をしたり刺激のある日常生活を過ごしている。	同左		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策を行い外出やドライブなど行っている。	同左	昨年度までは、新型コロナウイルス感染症防止のため、主にドライブでの外出を行っていましたが、本年度になってからは、いちご狩りやバラ園、公園への外出等、季節に応じた外出を行うことができるようになってきました。職員が感染防止を考えながら、外出の企画を実施していくことが、徐々にできるようになりつつあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブル回避のため預り金は廃止している。	同左		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様の希望、ご家族様から電話があった際には支援している。手紙や年賀状などは職員が読み聞かせにて支援している。	同左		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の創作を飾り、季節を感じていただいている。共用の空間に刺激が無いよう配慮し居心地よく過ごしていただいている。	同左	グループホームの共有空間や廊下には、行事の写真や、四季折々の飾り付けがされていて、季節を感じると共に、温かさが感じられる空間となっていました。利用者の多くの皆さんは、居間は居室よりも共用スペースで過ごされる方が多いようです。寒い時期でしたが、室内は暖かく保たれていて、居心地の良い空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お客様の状況や希望にて居室と共用の空間を使い分けて職員はお客様が思い思いのお時間が過ごせるように声掛けと支援を行っている。	同左		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から使い慣れた物をお持ちいただき、家にいた時と同じように馴染みの物に囲まれた空間でお過ごしいただけるよう配慮している。	同左	家庭からの持ち込みの物品についての制約は特になく、基本的には、家庭で使われている物をそのまま使われている方が多くいました。仏壇やお位牌などを持ってこられる利用者の方や、ご家族の写真等を飾られている方もいて、自宅からの継続した暮らしにつながっていると感ずることができました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の内部はお客様の身体状態に合わせて導線を確保し安全の生活が出来るよう配慮している。	同左		